

山住古道の山ビル取り

八月二十八日に山に生きる会が実施する山ビル取りに同行しました。今回は山住神社のかつての参拝道でもある山住古道で実施しました。私を含め八人が参加し、計六百匹弱を捕えました。私の成果は七十三匹でした。

山住古道は、家康が通ったゆかりの地でもあるため、来年の大河ドラマも見据えて、古道整備が定期的に行われていきます。橋の修繕や登山道入口の説明板の設



山に生きる会が修繕した「おちない橋」



ヒル取りグッズ

置など、今年度に入ってから整備したものも多いです。ヒル取りでは、塩が入ったピンを片手に、割りばしをもう一方の手に持って前かがみでヒルを探しながら歩くので、はたから見ればなかなかの珍道中です。通常の山登りでは登山道の山側をなるべく歩きますが、ヒルは谷側から上がってくるが多いため、ヒル取り時は谷側を良く歩きます。登山をするときは、



ヒルはしゃくとりむしのように体を曲げ伸ばして移動する

山側を歩きつつ谷側の足に注意を払っていただくと、ヒル被害を未然に防げる確率が上がると思います。ほぼ下を向きっぱなしの山歩きでしたが、そのおかげか、ヤスデ・ミミズ・カエル・ザトウムシ・カマドウマ・カタツムリなど、山の土壌に生きる生物の豊富さ(量・種類ともに)を改めて実感することができました。

天竜商工会理事会にて

天竜商工会より、理事会にてお話をさせて頂いた、だく機会をいただきました。

山いき隊の中には、観光業を経営してきた者、デザインを学んできた者、写真を得意とする者、街場との人脈を活かして地域に人を呼び込む者など、様々な人材がいます。皆それぞれ目標がありますが、活動する以前に、自身のやる気・能力・技術を生かす場を地域で見つける(地域で活動をするテーブルに付く)のに苦労することも少なくありません。

商工会員をはじめとした地域の皆さんから活動の提案や依頼をいただけると、特に活動歴が浅い隊員の活動の場を広げることにつながるほか、隊員や行政が地域の需要を把握することにもつながるため、大変ありがたいです。

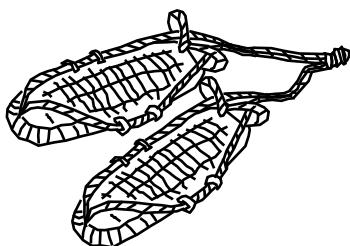
山いき隊はプロ集団ではなく、地域での経験も浅いため、我々が地域活動に携わること、かえってご迷惑をおかけしてしまうこともあると思います。そういった制度面の説明を地域に対して適切に行ったり、自らの活動を省みて自己研鑽したりするなど、まずは我々自身が努力をしていかなければいけません。

地域の皆さんには、引き続き厳しい目で我々の活動を見ていただき、時に背中を押していただけましたら、大変嬉しく思います。



水窪に来てから、地域の方々と一緒にわらじを作り勉強させていただく貴重な機会をいただきました。私は最初、わらじ作りの基本である縄をなう作業すら満足にできなかったため、まずは縄をなう練習を自宅で繰り返ししました。一人で地面に胡坐（あぐら）をかいて、わらがこすれ合う音だけが響く時間が私はとても好きで、縄をなう練習をしていると、つい時間を忘れてしまいます。

わらじは、作り方は比較的単純ですが、地域で長くわらじ作りを経験してきた方が作ったものと私が作ったものを比べると明らかに丈夫さも見た目も違います。私の場合、一足作るのに三時間以上はかかるのですが、履きつづすのは一日〜数日です。かつては、子供が学校に履いていくわらじを家族が夜や雨の日の時間を使ってこしらえていたそうです。



今は、履物は購入すれば事足りる時代になりましたが、それによって生み出された時間を自分が有効に使えているかと問われると、その自信はありません。縄をなったり、わらじを作ったりしていると、昔の時間の使い方と現代の時間の使い方の違いについて考えさせられます。

便利な時代になりましたが、それによって失われていく感性や能力も多いように感じます。現代の技術や先人が積み上げてきたものを存分に学び、享受しつつ、一方で失われゆく感性や能力も持ち合わせていたいと望むのは、少し欲張りでしょうか。